

## 第3回 基礎講座

# 国内外の子供向けプログラムの実例を探る

## ～アートがもたらす対話で新たな自分に出会う～

開催日時：2025年10月11日（土）14：00～16：30

場所：アーツカウンシル東京 会議室 東京都千代田区九段北4丁目1-28

講師：白木 栄世 (森美術館ラーニング・キュレーター)



### 講座のねらい

国内外の様々な子供向けワークショップや、アートプロジェクトの事例を通して、幅広い取り組みの知見を得る。

### 講座の内容

#### 1 アイスブレイク

森美術館で実際に行っているアイスブレイクを紹介。参加者が同じものを見て、そのものを見ていない背景や物語を想像し、考えを共有することで、隣にいる他者のことを知るワークを受講生同士で体験

#### 2 森美術館のラーニング・プログラムの実例

これまで開催した展览会や、子供を対象としたプログラムの事例を参加者の声とともに紹介。現代アートにおいて作品の背景を想像することや、鑑賞者の日常の経験との結びつきなど、森美術館における「ラーニング」の考え方と、プログラムを企画する際の視点を整理

#### 3 海外美術館（英国2014年～2016年）のリーサーチから

イギリスのテート・モダンなどのラーニング・プログラムの事例と、当時の社会的背景を紹介。対話を促すプログラム作りの視点や、子供だけでなくあらゆる世代やバックグラウンドを持つ人に向けた美術館のラーニングのあり方を解説

#### 4 作品鑑賞

アイスブレイクと同様の方法で作品の画像を鑑賞し、それぞれが想像した作品の背景を共有。最後に作品が制作された背景を知ること、改めて現代アートを鑑賞し、共有するという活動の意義を整理

#### 5 まとめ

美術館は特別な場所ではなく、日常の延長線上にあり、「担い手」としてプログラムに参加する人たちの日常に意識を向けることの重要性を解説



### 受講生の声（一部編集しています）

最後の「**子供のことだけ思ってもだめ**」という言葉にハッとさせられた。子供の視点から考えるだけではないと思わされた。

美術館でのプログラムに参加した実際のお子さんたちの声を聞き、**視野を広げるとは何か**について改めて考えるきっかけになりました。

子供にとって**非日常の空間でも、リラックスして取り組める環境・プログラム**にできないか、という話は印象的だった。

「**美術館に行かない選択をした人のことを知るべき**」とあったように、自身の実践の意義と同時に、関心のない人の視点も探求すべきと思った。

